

## 産業医科大学

### 医学部の紹介

法医学教授・入試副本部長 佐藤寛晃

1978年厚労省のバックアップにより開学

2018年に開学40周年を迎える

産業医の資格が卒業と同時に取得できる全国唯一の大学（永久資格）

本大学病院は北九州唯一の特定機能病院

#### 本学が養成する医師

全国の企業の産業医、産業医科大学病院や全国の労災病院の医師として活躍している。

現状：疾病の予防や増進が最大の課題となっている。

2025年問題…団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となり、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という、人類が経験したことのない『超・超高齢社会』を迎える。→国家的な課題。

（卒業生の久米本先生のお話も踏まえると、元気で働いている人の健康にかかわる産業医は、予防医学という観点で特に役に立つ存在なのではないか？）

#### 産業医とは

働く人たちが健康で快適に働き続けられるよう専門的な支援を行う医師のこと。

- 病気を見る
- 予防・復職支援・メンタルヘルスのサポート
- 騒音・粉塵などの職場環境の改善
- 長時間防止などの勤務管理など

#### 学納金と自己負担額

修学資金1919万3200円を全員貸与

実質負担額は3分の1にあたる1129万6800円

※ 義務職従事（就学期間の1.5倍）で全額免除

カリキュラム

- 1年から6年まで産業医学の科目がある。
- 3年後半から臨床医学がはじまる。
- 6年では臨床参加型臨床実習

労働安全衛生法には企業が産業医を設置する規定がある

- 常時50名以上の労働者→産業医の選任の義務がある
- 常時1000名以上の労働者→専属産業医の専任の義務がある
- 500名以上の+有害業務→専属産業医の専任の義務がある

「産業医は医師であって、労働者の健康管理などを行うのに必要な医学に関する知識について厚生労働省令で定めた一定の要件を備えたものでなければならない」（13条）

まずは良き臨床医になり、高い臨床能力を身につけること。そのうえで、産業医学に関する高度な学問的専門性を有する医師になる必要がある。

医学部入試について

法医学教授・入試副本部長 佐藤寛晃

定員

推薦入試 20名以内

一般入試 約85名

昨年の入試データ

- 関東近畿九州から多く来ている。
- 推薦入試の倍率は5倍。
- 一般入試は1700名から合格者100名前後、昨年は14.5倍、一昨年は17倍。ちょっと落ちている。

- センター試験の比率が低い（950点中300点）

## 得点配分

センター試験（一次）：300点（最低得点率74.7%）

二次学力検査：600点（最低得点率42.2%）、各科目100分間

小論文：50点（最低得点率40%）

面接は点数化しないが重視する

※最低得点率について…どの試験でも最低得点であれば不合格。合格者の中で、センターがダメだった者は、二次でより高得点を出しているはずである。

## 二次学力検査について

数学・理科・外国語それぞれ100分・200点

二次学力検査を合格した者のみ、小論文120分・50点と面接20分

東京会場もあります。ただし、小論文／面接は本学にて。

## 医学部卒業後の進路について

進路指導部副部長 いっせとよひ  
一瀬豊日

## 設置目的

「産業医学の進行」と「優れた産業医を育成」

## 学納金と自己負担額

修学資金1919万3200円を全員貸与

実質負担額は3分の1にあたる1129万6800円

※ 義務職従事（就学期間の1.5倍）で全額免除。最小負担額は年80万円。

## さらに学内奨学金もあり

授業料全額免除 30人／全学年 半期ごと選考

授業料半額免除 30人／全学年 半期ごと選考

- ※ 修学資金は半期ごとに入金
- ※ 産業医学振興財団より入金される
- ※ 留年しても学費貸与される（義務職従事期間は増える）
- ※ 立て替えの必要もなし

### 卒業後修練

1. **産業医学分野**の専門性と技術を身につけるなら、6年卒業後に、  
臨床研修（2年）＋専門産業医コースⅠ（3年）＋産業医等の職務（4年）
2. **臨床医学分野**の専門性と技術を身につけるなら、6年卒業後に、  
臨床研修（2年）＋専門産業医コースⅡ（4年）＋産業医等の職務（5年）
3. **研究**をするなら、6年卒業後に、  
臨床研修（2年）＋産業医科大学大学院（4年）＋産業医等の職務（5年）

### 防衛医大や自治医大との違い

防衛医科大と自治医大は卒業後職員扱いで採用され、省内人事異動、自治体出向職員の形をとる。産業医科大では、学生として採用され、医師として修練し、各団体に従事する。職員扱いではないので、自分の意志で仕事を選ぶことができる。

### 他の大学に比べてキャリアパスは制限されないのか？

医師は平均、40歳半ばまで7回、生涯9回転職する。医学と産業医学の2つの資格・能力を習得するが、他の医師と同じような自由度でキャリアパスが描けるように制度設計されている。

### 産業医は足りているのか？

- 足りていない。他のどの医療科の求人倍率より高い状態が続いている。
- 零細企業が廃業、倒産、統合されている。大中企業は20年前の1.5倍に。  
つまり、産業医を必要とする企業が増えている。

### 大規模事業所増加の理由は新しい産業の誕生

→docomo、GREE、DeNA、SOLAR FRONTIER、人口の都市集中化など

## 卒業生の活躍の場

産業医科大学の人口分布に沿う形（太平洋ベルト）で、**都市部に集中**している。よって自治医大のような**僻地医療とは対照的**。

## 卒業生産業医から『産業医になって、近況について』

花王株式会社人財開発部門健康開発推進部産業医 久米本貴利

### 産業医科大学への道

医学部入学の目標がまずあった。当時のセンター試験の点数で志望校を挙げ、当時学費を貸してもらえるとということで産業医科大学を受験することとした。特に産業医になりたかったわけではない。

### 卒後の臨床経験

初期臨床研修は、春日部市立病院で内科系研修。

→産業医科大学本院・分院

→関東労災病院

→神経内科の専門医まで取得できた

### 神経内科を選択

脳、脊髄、神経、筋肉、つまり全身を診る内科。診察して診断する側面が極めて強い。画像解析より、実際に触れたほうが多くの情報を得ることができる。

### 産業医を目指すきっかけ

健診で高血圧を指摘された40歳男性。放置していたが、意識を失い、画像で脳出血と診断されたが、血圧以外に脳出血をきたす明らかな原因はなかった。その後、意思疎通困難、寝たきりの状態は改善することはなかった。

家族からの情報だと、自営業でいつ休んでいるかわからないくらい働き詰めの生活だった。

もし高血圧の治療ができたなら？もし、働き方にブレーキをかけることができたなら？働き続けることができただろう。そうすれば、家族の負担もなく、自分、家族、社会に貢献し続けることができたのは明らか。その力になれるのが、産

業医ではないのか？

### 嘱託産業医活動を開始

産業医科大学、卒後支援課に相談し、週半日だけの嘱託活動を開始。東芝ニューマンアセットサービス株式会社に嘱託産業医として所属した。週1回の勤務で、東芝三菱電機産業システム株式会社（TMEIC）へ出向した。1回5～6時間前後の勤務で、産業医業務を行っている。TMEICでは社員への個別対応が多いが、3年目に入り、会社全体の役に立てることがないか見つけることが目標だった。臨床で感じたことはまちがいでなかったことを確信。やはり専属の産業医を目指そうと考えた。

### 花王での業務

週4日の契約で勤務している。現場の産業医としての業務は、職場巡視、健康支援面談、健診後判定、復職支援、委員会への参加など。

花王グループ全体の産業保険、健康づくりを支援する全社的な産業医としての業務もある。生活習慣病を担当。

気づいたことは、『報酬があるということは、ニーズがある』ということ。どんな仕事にも世のため人のためになりたいという気持ちがあるのではないかな？

産業医では、全人的に人を診ている側面が強い。「この人はどんな病気があり、どんな仕事があり、家族のサポートはどうなっていて、仕事以外ではどんなことをしているのか・・・？」

### 参考：平成28年度オープンキャンパス

#### 卒業生産業医から『産業医になったら何ができるの？』

株式会社 IHI 横浜事務所産業医 新見亮輔

### 産業医大を卒業した強み

- 企業の求める「産業医」の仲間を多く獲得できる、自分のぶつかった問題はすでに先輩がぶちあった問題であることが多い。企業側にとって産業医大卒を雇うということは、産業医一人を雇うことにとどまらず、産業医大

のコネクションまで含めて雇うというメリットを感じてもらえる。

- 保険福祉分野を促進する立場のため、産休・育休は取りやすい。

#### 産業医とは

- 法令にもとづいて置かれる
- 主たる仕事は診療と検診ではない
- 産業医は軍医である

産業医は、相談対応やプロジェクト会議、教育・トレーニング、法定業務などを行う。保健師と一緒に仕事している。労働者と面談をして、相談に乗り、改善を促していくなど。

#### 具体例

1. 「熱中症の対策の監修、メンタル不調者への対応は充実してきたので、次はメンタル不調者を出さないための対策を打って欲しい。」
2. 「私達の部門は研究開発部門です。イノベーションを促進しないと生き残れない。産業医の立場から、イノベーションを促進するための助言をお願いします。」
3. 「私達の部門は、業績は良いのですが、長時間労働が慢性化している。今度は働き方改革のプロジェクトチームを立ち上げます。」

#### まとめ：産業医の業務とは

- 人の要素が入ってくればなんでもあり。医学という切り口から、「人材を守り、人材の価値を高めることならなんでもできる」
- ルーチンワークが少ないのが特徴。プロジェクトチームなど作り上げていく業務が多い。幹部から依頼され、人事部門や安全衛生部門など、非医療職と一緒に進めていく業務が多い。

以上